

まえがき

日本が壊れかけている。

こんな不穏な言葉から書き始めたくはないが、現実を直視すると、そう言わざるをえない。政治・経済からあらゆる領域で、問題は多発し、幾多の混乱が生じている。日々の暮らしにおいても同様である。

問題や混乱が発生するから、壊れていくわけではない。むしろ問題や混乱が次なるステップアップの契機となる場合もある。いま日本が壊れかけているというのは、そうした表面化した出来事の根底に、由々しき状況が広がっているからである。

一例をあげよう。よく報じられるように、日本人の年間の自殺者は、もう十年以上も三万人を超えている。その数の十倍以上の人たちが、自殺を願望しているという。この出来事を、われわれはどれほど重く受けとめているだろうか。

みずから死を選ぶに至った状況は、人さまざまである。経済苦、病氣、人間関係や、

仕事上の悩みなど、理由も多様である。だが、命を絶った人たちの多くには、共通して喪われたものがあると思える。もし喪われていなければ、自殺をもっとくい止められたであろうもの——それは何か。

他者との絆である。

絆とは、強い結びつきである。

愛の本質も結びつきであるから、絆は愛の別名といえる（第五話参照）。

絆を見失った人は、孤独に耐えきれなくなる。たとえ難病を患っても、自分に生きていてほしいと願う人が一人でもいたら、絶望の淵から這い上がれるだろう。たとえ貧苦にあえいでも、破滅に走ろうとする心を癒してくれる人が側にいたら、活路を見出す気力が湧きあがるだろう。

家族の絆が失われた家庭は、空しく壊れてしまう。企業でも地域でも国家でも、共同体の中で人々の絆が薄れると、たちまちモラル（倫理道德）は空洞化し、集団は破壊に向かう。

いかなる領域でも、私利私欲に走る人たちとの間に真の絆は生まれえない。道徳力を失ったリーダーは破壊をもたらすだけだ。老いた親の行方すら知らない人々がいることに驚かされるが、そうした無縁化は確実に広がっている。壊れかけている日本の根底に、絆の喪失が潜んでいるのは間違いない。

ここに言う絆の、結びつく相手は人間だけではない。物やお金との絆、自然との絆、仕事（職業）との絆、国土や郷土との絆、過去の伝統や文化との絆、亡き人たちとの絆……とさまざまある。そうしたあらゆる絆が弱まり、脆くなり、崩れつつあるように思える。であるならば、絆の回復と創造こそ、日本を甦らせる喫緊の課題といえよう。

社会の制度やシステムを変えすることも必要ではある。しかしながら性急な福祉政策で「育児の社会化」や「介護の社会化」が進みすぎると、逆に家族の絆が破壊されかねない。農業への意欲を失わせるような減反政策や規制強化は見直すべきである。「絆の回復と創造」を抛り所として、社会制度やシステムを再構築しなければならぬ。そのような次元とはまた別に、個々人が日々の生活において、絆を強化する実践

に励む必要がある。人々が無機質なアトムのように孤立化するのを防ぎ、各々の人生を深く生きるための実践である。

では、何をしたらいいのか。有効な実践を見出し、導いてくれる確かな教えはあるのだろうか。

ある。——それは「純粹倫理」と名づけられた生活の法則である。昭和の敗戦後に、丸山敏雄（二八九二―一九五二）がそれを唱導し、社団法人倫理研究所がその研究および実践普及を推進してきた。すでに六十五年を越える活動の歴史がある。

純粹倫理は生活の法則であるから、物の世界の法則（物理）と同じく、発見されたものだ。理論理屈で納得させられるものではなく、実践によって正しさが証明できる法則である。上辺の行動ではなく、心のありようが元になっている。

詳しいことは、丸山敏雄の著書『万人幸福の栞』を始めとする、多くの図書をご覧いただきたい。同研究所主催の各種の勉強の場に参加されたら、さらによくおわかりいただけるだろう。

すでに数多くの方々が「純粹倫理」を実践することで、苦難を解決したり、生活の改善をなし遂げてきた。そして今でも大勢の方々が実践に取り組んでいる。日常足下を離れて実践の場はない。

ごく素直な気持ちでやってみれば、難なくできる。けれども実際は迷うことが多い。頭でっかちになった現代人は、素直な気持ちで取り組むのは容易ではないからだ。自己流の実践に傾いていると、不都合な結果を招くことにもなる。

本書は、「純粹倫理」を踏まえながら、生活のさまざまな場面で、実践のヒントにしていただきたい二十の話を、エッセイ風に綴ったものである。壊れそうな日本を何とかしたいという思いも秘めている。とくに順序立った構成ではないので、どこからお読みいただいてもかまわない。前著『実践のヒント』（新世書房、二〇〇八年）の続編として活用いただけたら、嬉しいかぎりである。

今日もきつといいことがある 〈目次〉

まえがき

- 第一話 じつと見つめる…………… 9
- 第二話 知らないことが山ほどあるから面白い…………… 19
- 第三話 善きことは美しきこと…………… 27
- 第四話 なんのためにそれをするのか…………… 35
- 第五話 愛による絆を家庭に…………… 45
- 第六話 思いやりは倫理の原点…………… 61
- 第七話 反省したいことはいくらでもある…………… 69
- 第八話 木を見て森も見る…………… 79
- 第九話 体も心も温かく…………… 87
- 第十話 どうしたら実践できるか…………… 97
- 第十一話 手足を鍛えて自己を超える…………… 109
- 第十二話 繰り返す言葉のちから…………… 117
- 第十三話 機械のような生き方でもいいのか…………… 125
- 第十四話 他人も自分も受け容れる…………… 133
- 第十五話 昔話は生きる知恵の宝庫…………… 145
- 第十六話 死と向き合って乗りこえる…………… 155
- 第十七話 深い感動が自分を創る…………… 165
- 第十八話 経営道という垂直軸を打ち立てる…………… 175
- 第十九話 「日本創生」という旗印を掲げて…………… 185
- 第二十話 今日もきつといいことがある…………… 197